



## 2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年8月12日

上場会社名 株式会社共和コーポレーション 上場取引所 東  
 コード番号 6570 URL https://www.kyowa-corp.co.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)宮本 和彦  
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画室長兼経理部長 (氏名)澤田 亮 (TEL) (026)227-1301  
 四半期報告書提出予定日 2021年8月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の業績(2021年4月1日~2021年6月30日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	2,191	—	△73	—	△75	—	△69	—
2021年3月期第1四半期	1,505	△51.9	△402	—	△95	—	△315	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	△11.87	—
2021年3月期第1四半期	△52.90	—

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。これにより、2022年3月期第1四半期の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	10,610	2,893	27.3
2021年3月期	11,007	3,049	27.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 2,893百万円 2021年3月期 3,049百万円

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	5.00	—	9.00	14.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	8.50	—	9.00	17.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2022年3月期の業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,006	—	△25	—	△32	—	△49	—	△8.36
通期	10,142	—	135	—	127	—	55	—	9.36

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっております。これにより、対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2022年3月期1Q	6,080,130株	2021年3月期	6,080,130株
2022年3月期1Q	212,000株	2021年3月期	155,320株
2022年3月期1Q	5,871,557株	2021年3月期1Q	5,959,430株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(重要な後発事象)	8
3. その他	9
継続企業の前提に関する重要事象等	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社が属するアミューズメント業界におきましては、新型コロナウイルス感染症が未だ収束を見せず、不透明な状況が続いております。2021年4月には、東京都を含めた4都府県に3度目となる緊急事態宣言が発令され、当該都府県にある当社のアミューズメント施設3施設では臨時休業を実施いたしました。本書提出日現在は、一部の店舗にて営業時間の短縮等の措置を講じてはおりますが、全てのアミューズメント施設で営業を再開しております。

当社のアミューズメント施設では、昨今のアニメブームも相まって、依然として景品ゲームが人気を博しております。投入する景品につきましても、幅広い年齢層のお客様にお楽しみいただけるよう、フィギュアやぬいぐるみ、お菓子や小型家電等、バラエティに富んだ商品をセレクトしております。当社は引き続き、店舗ごとの景品ゲーム機の最適な構成比を検証しつつ、お客様のニーズにあった景品を幅広く取り揃えて参ります。

以上の結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,191,124千円(前年同四半期は1,505,557千円)、営業損失は73,348千円(前年同四半期は営業損失402,310千円)、経常損失は75,239千円(前年同四半期は経常損失95,899千円)、四半期純損失は69,706千円(前年同四半期は四半期純損失315,269千円)となりました。

なお当社は「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、経営成績に関しては増減額及び前年同期比(%)を記載せずに説明しております。この結果、当第1四半期会計期間における売上高については、従来の計上方法と比較して784,572千円減少しております。

当第1四半期累計期間におけるセグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① アミューズメント施設運営事業

アミューズメント施設運営事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止策に加え、景品ゲームの光触媒コーティングによる抗菌対策、QRコード決済の導入による非接触でのご遊戯等、更なる感染防止策を順次推進しております。またオリジナル景品の製作、人気アニメキャラクターとのコラボレーション企画等、売上施策も継続して実施しております。なお、2021年4月に「アピナ本巣店」、2021年6月に「アピナ吉川美南店」を開設し、総店舗数は57店舗となっております。さらに、2021年6月29日には「アピナ新利府 北館店」(2021年7月開設)において、「単一会場におけるクレーンゲーム機の最多数」として世界記録の認定を受けました。

以上の結果、アミューズメント施設運営事業における売上高は2,123,483千円(前年同四半期は1,105,240千円)、セグメント利益(営業利益)は42,260千円(前年同四半期は営業損失273,836千円)となりました。

#### ② アミューズメント機器販売事業

アミューズメント機器販売事業におきましては、アミューズメント機器や景品等の販売が好調となっております。アミューズメント機器につきましては景品ゲーム機の販売が、景品につきましては人気アニメキャラクターの関連景品の販売が、それぞれ売上高を牽引しております。この結果、売上高は43,982千円(前年同四半期は345,329千円)となりましたが、収益認識会計基準等の適用により、売上高は従来の計上方法と比較して785,674千円減少しております。セグメント利益(営業利益)は31,704千円(前年同四半期は3,306千円)となりました。

#### ③ その他事業

その他事業とは、主に各種媒体を利用した広告代理店業であり、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策用の販促品販売が増加した前期と比較し、今期は販売が若干落ち着いたこと、またイベント等の開催や広告費の削減傾向が続いたこともあり、売上高は23,659千円(前年同四半期は54,988千円)、セグメント利益(営業利益)は455千円(前年同四半期比5,818千円)となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第1四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比較して397,084千円減少し、10,610,886千円となりました。主たる要因はアミューズメント機器が212,246千円、貯蔵品が34,812千円それぞれ増加したこと、現金及び預金が1,349,360千円減少したこと等によるものであります。

#### (負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は、前事業年度末と比較して241,519千円減少し、7,717,064千円となりました。主たる要因は設備関係支払手形が185,009千円増加したこと、長期借入金が282,909千円減少したこと等によるも

のであります。

（純資産）

当第1四半期会計期間末における純資産合計は、前事業年度末と比較して155,565千円減少し、2,893,821千円となりました。主たる要因は利益剰余金が126,309千円減少したこと等によるものであります。

### （3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年5月14日の決算短信で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

また、上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,647,204	3,297,843
受取手形及び売掛金	702,921	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	732,012
有価証券	200,000	200,000
商品	29,217	27,681
貯蔵品	132,280	167,092
その他	336,259	869,125
貸倒引当金	△1,368	—
流動資産合計	6,046,515	5,293,756
固定資産		
有形固定資産		
アミューズメント機器（純額）	1,187,959	1,400,206
建物（純額）	1,189,966	1,204,618
機械及び装置（純額）	32,050	31,222
工具、器具及び備品（純額）	130,166	160,137
土地	764,314	764,314
その他（純額）	17,263	71,024
有形固定資産合計	3,321,721	3,631,523
無形固定資産		
その他	43,001	51,908
無形固定資産合計	43,001	51,908
投資その他の資産		
投資有価証券	116,904	116,173
繰延税金資産	37,366	64,015
敷金及び保証金	1,252,329	1,258,656
その他	241,325	246,046
貸倒引当金	△51,194	△51,194
投資その他の資産合計	1,596,732	1,633,697
固定資産合計	4,961,455	5,317,129
資産合計	11,007,970	10,610,886

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,053,461	986,015
1年内返済予定の長期借入金	1,336,584	1,270,872
未払金	559,938	594,334
未払法人税等	70,727	18,561
資産除去債務	2,420	2,420
賞与引当金	69,732	89,325
設備関係支払手形	42,658	227,667
その他	99,560	76,342
流動負債合計	3,235,082	3,265,539
固定負債		
長期借入金	4,230,895	3,947,986
資産除去債務	489,705	501,350
その他	2,900	2,189
固定負債合計	4,723,501	4,451,525
負債合計	7,958,584	7,717,064
純資産の部		
株主資本		
資本金	709,709	709,709
資本剰余金	502,619	502,619
利益剰余金	1,841,428	1,715,118
自己株式	△52,108	△80,855
株主資本合計	3,001,648	2,846,591
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	47,738	47,230
評価・換算差額等合計	47,738	47,230
純資産合計	3,049,386	2,893,821
負債純資産合計	11,007,970	10,610,886

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	1,505,557	2,191,124
売上原価	950,747	1,005,962
売上総利益	554,810	1,185,162
販売費及び一般管理費	957,120	1,258,511
営業損失(△)	△402,310	△73,348
営業外収益		
受取利息	439	359
受取配当金	509	1,105
受取保険金	308,625	—
自販機設置協賛金	1,251	559
太陽光売電収入	1,900	2,157
その他	3,043	1,850
営業外収益合計	315,770	6,032
営業外費用		
支払利息	7,612	6,653
その他	1,747	1,270
営業外費用合計	9,359	7,923
経常損失(△)	△95,899	△75,239
特別損失		
臨時休業による損失	344,536	11,761
固定資産除却損	789	53
特別損失合計	345,325	11,815
税引前四半期純損失(△)	△441,225	△87,054
法人税、住民税及び事業税	8,221	7,640
法人税等調整額	△134,176	△24,989
法人税等合計	△125,955	△17,348
四半期純損失(△)	△315,269	△69,706

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前第1四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	アミューズ メント施設 運営	アミューズ メント機器 販売	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,105,240	345,329	1,450,569	54,988	1,505,557	—	1,505,557
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	1,105,240	345,329	1,450,569	54,988	1,505,557	—	1,505,557
セグメント利益 又は損失(△)	△273,836	3,306	△270,530	5,818	△264,711	△137,598	△402,310

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業を含んでおります。

2. 調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	アミューズ メント施設 運営	アミューズ メント機器 販売	計				
売上高							
北海道	17,360	—	17,360	—	17,360	—	17,360
東北	38,290	—	38,290	—	38,290	—	38,290
関東	761,643	43,982	805,625	—	805,625	—	805,625
甲信越	710,176	—	710,176	23,659	733,835	—	733,835
北陸	174,460	—	174,460	—	174,460	—	174,460
東海	305,531	—	305,531	—	305,531	—	305,531
近畿	97,193	—	97,193	—	97,193	—	97,193
その他(注4)	18,828	—	18,828	—	18,828	—	18,828
顧客との契約から生 じる収益	2,123,483	43,982	2,167,465	23,659	2,191,124	—	2,191,124
外部顧客への売上高	2,123,483	43,982	2,167,465	23,659	2,191,124	—	2,191,124
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,123,483	43,982	2,167,465	23,659	2,191,124	—	2,191,124
セグメント利益 又は損失(△)	42,260	31,704	73,964	455	74,419	△147,768	△73,348

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業であり、広告代理店事業を含んでおります。

2. 調整額は、主に各報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

4. 「その他」は、各店舗の自販機の受取手数料等の金額であります。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期累計期間の「アミューズメント施設運営」の売上高及びセグメント利益に与える影響は軽微であります。また、「アミューズメント機器販売」の売上高は785,674千円減少しておりますが、セグメント利益に与える影響はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

### 3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等  
該当事項はありません。